

# 教育研究業績書

令和6年 3月 26日

氏名 中本 貴規

専門分野(中分類)	専門分野(小分類(専攻))
教育学関係 社会・自然科学関係	教科教育学 幼児教育学 環境教育学

## 教育上の能力に関する事項

事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例		
体験授業の活用	2020年4月 ～現在に至る	飯田短期大学の授業「子どもと健康」「からだとあそび」において、身近な環境への気づきを深めることの重要性を伝えるべく、近隣の自然環境を活用し、五感を使って自然を体感するネイチャーゲームなどの体験活動に触れる機会を設けた。実際の現場でも活かすことができる活動の習得にもつながった。
屋外保育時のリスクマネジメントにおいてイラストシートを用いた危険予知トレーニングの実践	2021年12月 ～現在に至る	飯田短期大学の授業「からだとあそび」において、保育施設における安全教育・安全管理に関する全体的な概要を確認すると共に、イラストシートを用いた危険予知トレーニングを実施することで、より具体的に屋外保育での安全教育・安全管理の必要性について理解を深めることができた。
こどもゆめ基金事業 講師 「夏の自然を楽しもう」 「秋の自然を楽しもう」	2020年8月 ～現在に至る	地域の園児・小学生を対象に飯田短期大学構内でネイチャーゲーム講座を実施した。また、学生スタッフを入れることによって、自然体験活動の方法や子どもたちの反応について学生の理解を深める機会になった。
鳴門教育大学での雪上実習(スノーボード)講師	2021年3月 ～現在に至る	鳴門教育大学での雪上実習において、雪上での生活方法、スノーボードの基本技能、テント設営などの指導を行った。
小学校体育授業におけるICTの活用	2018年4月 ～2020年3月	小学5・6年生の体育において、動きの確認や改善を図るためにタブレット端末を用いて授業を行った。子ども自身が自分の動きを客観的に見ることでき、学習効果を高めるものになった。
小学校での体育・保健指導	2018年4月 ～2020年3月	小学校5年生92名を対象に、体育および保健の指導を行った。体育では、体づくり運動、鉄棒、ソフトバレーボール、ソフトボール、サッカー、なわとびなどの種目の指導を実施した。
ふくしまキッズでの手稲山登山指導	2018年8月	夕張ネイチャーキッズクラブが主催するふくしまキッズにおいて、小・中学生17名を対象に手稲山登山指導を行った。
直接体験を重視した宿泊学習での自然体験指導	2018年7月	日高青少年交流の家で行われた、小学校5年生の宿泊学習において、92名を対象に安全な沢登りへの指導や直接体験を重視した自然体験活動の指導を行った。
「特別の教科 道徳」でのアサーショントレーニングの実践	2017年9月 ～2020年3月	鳴門教育大学附属小学校6年生33名、苫小牧市立澄川小学校5年生29名を対象に「特別の教科 道徳」での「アサーショントレーニング」を実施し、児童にコミュニケーションの技術指導をした。
2. 作成した教科書、教材		
持続可能な社会をつくる幼児期のESD論—子どもと環境—	2024年2月	第5章「自然体験を通して広がる人間関係と発達」を執筆。幼児期における自然体験の重要性、幼児の自然体験の実際、自然体験にける保育者の役割について解説を行った。

自然保育と環境教育・ESD	2023年3月	<p>第2部第8章において、保育士養成校での自然保育に関わる教育的実践方法について執筆を行った。また、編集委員としても携わり、序論と第1部第4章の編集を担当した。</p> <p>【執筆】 第2部、第8章、自然保育者指導の養成—保育者養成校の実践—。（共著者）増田直広、中本貴規</p> <p>【編集】 ・序論、自然保育の現状と展望 ・第1部、第4章、幼児の保護者の自然観</p>
3. 教育上の能力に関する大学等の評価		
飯田短期大学での授業評価アンケート	2020年8月 2021年8月 2022年8月 2023年8月	飯田短期大学での「身体表現（創作ダンス）」を受講した学生を対象に授業評価アンケートを行った。授業に関する満足度、教員の指導力等について90%以上の学生から満足との回答を受けた。
平成30年度・小学5年生を対象とした授業評価アンケート（苫小牧市立澄川小学校）	2018年10月 2019年10月	苫小牧市立澄川小学校で行われた授業評価アンケートにおいて、授業内容や板書、課題の提示、授業内の児童同士の交流、振り返りの評価について小学5年生の90%以上の児童から満足しているとの回答を受けた。
4. 実務の経験を有する者についての特記事項		
	2023年12月	飯田市子育て支援拠点わいわいひろば職員研修 講師 わいわいひろばに在籍する職員（7名）を対象に、救急救命講習（MFA® □チャイルドケアプラス™□）を実施した。
	2023年11月	阿南第一中学校 健康フォーラム 講師 阿南第一中学校在籍の生徒（70名程度）、教職員（20名程度）、保護者（50名程度）を対象に、「傷害予防につながる準備と考え方」の講演及び家庭で取り入れやすい実技の紹介を行った。
	2023年11月	飯田市長時間保育士研修 講師 飯田市公立保育園に在籍する長時間保育担当者（50名程度）を対象に危険予知トレーニングの指導を行った。
	2023年11月	飯田市保育士研修 年中部会 講師 飯田市内公立保育園年中担当者（20名程度）を対象に、園児との自然散策の注意事項、散歩中に活かせる自然遊びの紹介をした。
	2023年10月 ～2024年2月	長野県地域発 元気づくり支援金事業 講師 長野県内在住の一般の方を対象とし、「災害に備えよう！～それぞれにあわせた災害への備えを！～」と題し、災害時に役立つ応急手当の方法を解説、実技も交えた指導を行った。
	2023年5月 ～2023年6月	駒ヶ根市保育士研修 講師 駒ヶ根市内全ての幼稚園・保育園に在籍する保育者を対象に、AEDの使用法、CPRの方法、軽度の傷害の対応方法について解説し、実技を交えて指導を行った。
	2021年12月 2022年9月	飯田市保育補助員研修 講師 飯田市内公立保育園に所属する保育支援員を対象に、「いいだ型自然保育」についての解説、保育現場で活用できる自然体験活動の紹介を行った。
	2022年10月	泰阜村教育委員会 寄附講座 講師 泰阜村在住の高齢者を対象に健康づくりを目的として、身体全体を使う運動及びボールを使ったエクササイズを紹介した。

	2022年10月	伊那市保育士研修会 講師 伊那市公立保育園に所属する保育士(30名程度)を対象に危険予知トレーニングの指導を行った。
	2022年8月	阿南町保育士研修 講師 阿南町公立保育園に所属する保育士(30名程度)を対象に危険予知トレーニングの指導を行った。
	2022年6月	下伊那主任保育士研修 講師 下伊那郡公立保育園主任保育士(30名程度)を対象に保育中の安全管理や事故事例分析の方法についての解説や危険予知トレーニングの指導を行った。
	2021年12月	松川町保育士研修 講師 松川町公立保育園に在籍する保育士(60名程度)を対象に、保育で活用できる運動遊びとして、ドイツ発祥ボール遊び「バルシューレ」の指導を行った。
	2021年12月	飯田産業技術大学講座 講師 飯田市内に拠点を置く一般企業の人事担当者(10名程度)を対象とし、「運動とレクリエーション」のテーマのもと、アイスブレイクの指導を行った。
	2021年11月	宮田村保育士研修 講師 宮田村公立保育園に在籍する保育士(50名程度)を対象に、保育で活用できる運動遊びとして、ドイツ発祥ボール遊び「バルシューレ」の指導を行った。
	2021年5月 ~2022年2月	長野県地域発 元気づくり支援金事業 講師 長野県南信州地域に在籍する保育者(合計120名程度)に対し、保育中の事故事例分析の方法や危険予知トレーニングの指導に関わる講座及び応急手当の講座を担当した。
	2021年10月 ~2021年11月	箕輪町保育協会保育士研修 講師 保育士(約80名)を対象に、保育に活用できる自然体験活動として、様々な感覚を用いて、自然を直接体感することの出来る「ネイチャーゲーム」を紹介した。
	2013年4月 ~2019年9月	ふくしまキッズ(空知) 運営スタッフ ふくしまキッズin空知に2013年から2014年まで被災児童支援活動のボランティアとして参加し、2015年からは年3回の活動において、運営スタッフとして全体統括者のサポートや子どもの直接指導などを継続的に任された。
5. その他		特になし

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1. 資格、免許	2023年3月	1)公園財団プロジェクトワイルド 本編・水辺編 ファシリテーター
	2023年3月	2)自然体験活動指導者(NEAL)主任講師資格 自然体験活動指導者養成資格(全国体験活動指導者認定委員会公認)
	2023年1月	3)公益財団法人 全日本スキー連盟 スノーボード検定1級
	2021年8月	4)バルシューレC級指導者
	2021年3月	5)MFAチャイルドケアプラス インストラクター

	2018年3月	6)小学校教諭専修免許状 徳島県教育委員会
	2018年3月	7)中学校教諭専修免許状(保健体育) 徳島県教育委員会 平29中専第18号
	2018年3月	8)高等学校教諭専修免許状(保健体育) 徳島県教育委員会 平29高専第19号
	2013年6月	9)プロジェクト・ラーニング・ツリー ファシリテーター
	2013年6月	10)プロジェクト・ウェット エducーター
	2012年6月	11)ネイチャーゲームリーダー
2. 特許等		特になし
3. 実務の経験を有する者についての特記事項  北海道苫小牧市立澄川小学校 教諭	2018年4月 ～2020年3月	2018年度は5学年担任、2019年度は6学年担任。 校務分掌は生徒指導部を担当した。
4. その他		特になし

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著	年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1 持続可能な社会をつくる幼児期のESD論—子どもと環境—	共著	2024年2月	人言洞	第5章「自然体験を通して広がる人間関係と発達」を執筆。幼児期における自然体験の重要性、幼児の自然体験の実際、自然体験にける保育者の役割について解説を行った。
2 自然保育と環境教育・ESD	共著	2023年3月	NPO法人 北海道自然体験活動サポートセンター	第2部第8章において、保育士養成校での自然保育に関わる教育的実践方法について執筆を行った。また、編集委員としても携わり、序論と第1部第4章の編集を担当した。 【執筆】 第2部, 第8章, 自然保育者指導の養成—保育者養成校の実践—。(共著者)増田直広、 <u>中本貴規</u> 【編集】 ・序論, 自然保育の現状と展望 ・第1部, 第4章, 幼児の保護者の自然観
(学術論文)				
1 危険予知トレーニングの保育者養成校における展開方法の検討	共著	2022年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要 第52号	保育者をめざす学生と現職保育者の KYT 参加後の自由記述により、それぞれの効果の特徴を比較した。これにより、学生の記述では「起きる」「注意」「危ない」、現職保育者の記述では「改めて」「下見」「楽しい」か「特徴のある語として抽出された。特に学生についてはリスクマネジメントの必要性を学ぶと共に具体的な方法を確認すること、現職については改めて普段の保育実践に結びつけて考えることなどがわかった。(共著者)田中住幸、 <u>中本貴規</u> 、能條歩

2	コロナ禍における乳幼児の保護者の「困り感」	共著	2021年8月	北海道教育大学紀要 教育科学編 第71巻 1号	札幌市及び長野県飯田市の幼稚園等を対象として実施した調査の自由記述を計量テキスト分析により整理・分析した。その結果、「遊び場所」「休園の影響」などに関する計9種の「困り感」が見てとれた。内容には共通して、屋外に出られないことに関連するものが突出して多く、いわゆる自然体験のような「外遊び」がいかにヒトにとって重要なものであるかや、自然と切り離された生活が大人にも子どもにも多大なストレスを生むこと、「こどもにストレスを感じさせていること」がストレスになること、が示された。(共著者)能條歩、田口夏美、田中住幸、 <u>中本貴規</u> 、陳情情、板垣有咲
3	乳幼児の保護者の主観的幸福感や自然に対する肯定的態度と教育観との関係	共著	2021年8月	北海道教育大学紀要 教育科学編 第71巻 1号	北海道札幌市と長野県飯田市の幼稚園・保育園・認定こども園の保護者を対象に、保護者の主観的幸福感や自然に対する肯定的態度と教育観との関係明らかにするため調査を行った。その結果、主観的幸福感と自然への肯定的態度には関係性があること、過去の自然体験が多いと主観的幸福感も高い傾向にあること、自然への肯定的態度と主観的幸福感が保護者の教育観に影響を与えることなどがわかった。(共著者)田口夏美、能條歩、田中住幸、 <u>中本貴規</u> 、陳情情、板垣有咲
4	屋外での保育における保育者の危険予知・回避・コントロール・対策能力向上に向けた教材開発	共著	2021年5月	飯田女子短期大学研究紀要 第38巻	信州やまほいく認定園の保育者を対象に、アンケートによるヒヤリハット・事故事例調査を行った。調査の結果から得られた知見を参考に、屋外での保育における保育者の危険予知、回避・コントロール、対策能力向上に向けたシミュレーションシナリオを作成した。研究では、データ集計・分析を担当した。(共著者)田中住幸、 <u>中本貴規</u> 、松永幸代、宮下幸子、能條歩
5	自然体験教育と環境教育の視座から見た日中の幼児教育における一考察	共著	2020年8月	北海道教育大学紀要 教育科学編 第71巻 1号	幼児教育における自然保育について、中国と日本の教育制度の相違点の比較を行い、自然体験教育や環境教育的視座からの検討を進めるための情報の整理を行なった。その結果、「自然への親和的態度の育成と心身の健全な発達のための自然体験がどうあるべきか」を踏まえた実践状況の把握と課題の洗い出しが必要であり、それらの点を踏まえた上で、共通の遊びも複数みられる日中両国に適した教育方法の検討が必要と考えられた。(共著者)陳情情、能條歩、田中住幸、 <u>中本貴規</u>
6	幼稚園・保育所・認定こども園の安全管理の実態に基づいた支援活動	共著	2020年5月	飯田女子短期大学研究紀要 第37巻	南信州地域(特に飯田、下伊那地域)の幼児教育施設を対象に安全管理に関する実態調査を行った。実態調査の結果からは、危険予知、回避・コントロールよりも、対策重視である保育現場の実状を垣間見ることができ、保育の安全性の向上、保育者が抱える安全管理に関する不安や困りごとの解消、保護者との連携といった側面において、危険予知や回避・コントロールといった視点を充実させていくことが、今後の保育現場の課題として示唆された。(共著者)田中住幸、宮下幸子、 <u>中本貴規</u> 、能條歩
7	対話的な学びのための自然体験教育による「建設的コミュニケーション力」の育成～集団宿泊学習における野外教育プログラムの検討～	共著	2018年8月	北海道教育大学紀要(教育科学編)第69巻 第1号	幼少期における自然を題材とした教育活動(ネイチャーゲーム、プロジェクトワイルドなど)には、自然と人を繋げる効果の他にも人と人を繋げる効果も期待できるほか、「建設的コミュニケーションを育む」という視座で小学生を主な対象として研究を行った。結果は、「自然を感じるプログラム」を取り入れた自然体験活動は、参加者の建設的コミュニケーション能力を向上させることが明らかとなった。(共著者)能條歩、 <u>中本貴規</u>

8	アサーショントレーニングと野外教育の関係性	単著	2018年3月	日本教育大学協会 専攻学生修士論文推薦論文集	小学生を対象とし、「野外教育活動」と「アサーショントレーニング」との関係性を明らかにする目的で研究を行った。結果からは、野外教育活動でのコミュニケーション教育は長期的な見通しを持つことで効果を維持向上させることが明らかとなった。また、コミュニケーションの量、質、身体活動量も同時に調査を行うことで、コミュニケーション教育が参加者の身体活動量の増加へも繋がっていることが示唆された。
9	アサーショントレーニングと野外活動の関係性	共著	2018年2月	鳴門教育大学学校教育研究紀要 第32号	コミュニケーションの技法の一つである「アサーショントレーニング」と対人的な場が多く、コミュニケーションをとる機会が多い「野外活動」の関係性を明らかにすることを目的に調査及び研究を行った。特に、研究全体の進行管理、本文執筆、データ集計分析を担当した。(共著者)中本貴規、南隆尚、能條歩
10	野外教育における活動量とコミュニケーションの関係性に関する試み	共著	2018年2月	鳴門教育大学学校教育研究紀要 第32号	野外教育における活動量とコミュニケーションの関係を把握することを目的として研究を行い、大学生を対象とし、活動量とコミュニケーション量を調査した。研究にあたって、調査から得られたデータをもとに分析、図表作成を担当した。(共著者)南隆尚、松井敦典、坂口聖徳、中本貴規
11	中学校体育授業「剣道」における指導内容の検討ー男女共修のあり方を中心にー	共著	2017年5月	鳴門教育大学授業実践研究 第16号	中学校剣道授業における男女共修のあり方について中学生80人を対象に検討を行なった。授業の中で意図的に男女がペアとなって対人的な活動をする場を取り入れ、その後のアンケートから男女の共修についての考察を行なった。特に授業者として中学生への指導、アンケートの実施及びデータ分析、図表作成を担当した。(共著者)木原資裕・西本浩章・中野竜太郎・徳永綜一郎・木島拓也・中本貴規・藤岡莉子・篠原健真・田村律子

(その他)					
1	大学連携による自然保育者養成の試み	-	2022年3月	日本環境教育学科北海道支部大会 2022	共同研究の口頭発表を行った。
2	森へおいでよ~ずっといたくなる森へ~長野県最南端の小さな村の今とこれから~	-	2022年3月	日本環境教育学科北海道支部大会 2022	共同研究の口頭発表を行った。
3	保護者の自然観と教育観がこどもの自然体験に与える影響ー日中の幼児教育における比較ー	-	2021年3月	日本環境教育学科北海道支部大会 2021	共同研究の口頭発表を行った。
4	乳幼児の保護者の主観的幸福感と自然への態度との関係が教育観に与える影響	-	2021年3月	日本環境教育学科北海道支部大会 2021	共同研究の口頭発表を行った。
5	自然体験教育と環境教育の視座から見た日中の幼児教育における一考察	-	2020年11月	日本自然保育学会第5回大会	共同研究の口頭発表を行った。
6	乳幼児の保護者の主観的幸福感と自然に対する態度の関係について	-	2020年11月	日本自然保育学会第5回大会	共同研究の口頭発表を行った。
7	アサーショントレーニングと集団宿泊活動の関係性	-	2019年3月	日本環境教育学会北海道支部研究大会 2019	共同研究の口頭発表を行った。
8	自然との距離を縮めるプログラムにおける建設的コミュニケーション力の育成	-	2017年9月	一般社団法人 日本環境教育学会 第28回年次大会(岩手)	共同研究の口頭発表を行った。
9	アサーショントレーニングと野外活動の関係性	-	2017年6月	日本野外教育学会 第20回大会(東京)	共同研究の口頭発表を行った。